



インドネシア国 結核診断キットの普及促進事業 ニプロ株式会社

インドネシア国の開発ニーズ

- ▶ インドネシアは結核患者数が世界で第2位であり、結核の感染率と死亡率が東南アジアで最も高い。
- ▶ 多剤耐性結核高蔓延国上位20ヶ国の一つで薬剤感受性検査結果に基づく迅速な薬剤耐性結核対策が必要。

普及促進事業の内容

- ▶ プルサハバタン病院へジェノスカラーを導入。培養株を用いた性能評価実施。
- ▶ プルサハバタン病院含む主要8施設での臨床検体の収集、ジェノスカラーの有効性実証試験実施。
- ▶ 同国における薬剤耐性結核患者の調査。ジェノスカラーを用いた診断、治療の費用対効果を検証。
- ▶ 薬事承認の取得。結核対策プログラムや結核関連ファンドへの採用提案。

提案企業の技術・製品



ジェノスカラー

多数の薬剤耐性関連遺伝子を迅速に検出する技術。対象薬剤はリファンピシン、イソニアジド、ピラジナミド等主要抗結核薬に対応。非結核性抗酸菌 (NTM) も検出可能。

事業のポイント

既存の結核検査フローに日本の結核診断技術であるジェノスカラーを組み込み、より迅速で効果の高い結核・薬剤耐性結核対策を行う。

インドネシア国側に期待される成果

- ▶ 薬剤感受性検査結果に基づく適切な薬剤選択により、効率的な薬剤耐性結核対策が可能となる。
- ▶ 迅速に得られた複数の薬剤感受性情報に基づく治療により、治療期間の短縮、治療コストの低減が可能となる。

日本企業側に期待される成果

現状

- ▶ 日本国内で普及しているが、結核患者の多い途上国での普及は限定的。インドネシア国では培養による薬剤感受性検査が主体となっている。

今後

- ▶ ジェノスカラーがインドネシア国結核対策プログラムに採用され、広く使用されることで同国の結核対策に貢献する。